

カタチの進化論

はじめに手があった。手は人間と共にあった。おそらく人類が初めて創り出した立体造形物は、自由になった手で握りしめた粘土の塊であったのではないだろうか。

アトリエでその日の作業が終わり、余った紙原料を保管するために手の中で握りつぶして脱水することがある。この繊維の塊(立体造形物)はとても興味深いカタチをしている。私たち人間の手の形は、指紋が一人ひとり違うように唯一無二のものであり、握りつぶした塊も千差万別なのだ。手の中で握りしめた無意識のカタチこそ実は最初に信頼できる他者であり、皮膚を通して世界を感じ取る手がかりとなる。

20年前より何度も繰り返して実践してきた「手の中プロジェクト」というワークショップがある。これは子供から老人まで様々な人々に紙の原料を握ってもらうというシンプルなワークショップなのだが、握るものと握られるモノが逆転し、手の中の見えない空洞が一瞬にしてリアリティーを持った姿で現れる。直接的に内と外が身体接触する瞬間に立ち会うことになる。それらの塊をテーブルの上に並べてみると、同じカタチが一つもないにもかかわらず、握るという行為の原点、ヒトが共通してもつ創造力の源泉のようなものが見えてくるような気がする。

今回はその「手の中プロジェクト」と同時に、道具を使わず自分の手だけで作った紙のカタチを展示したいと思っている。世の中のIT化の流れに逆行するようだが、究極のアナログ作業が目的である。作らないように作る、あるいは作るように作らないというおそそ文明的でない手法の中から何か新しい発見があるかも知れない。言うまでもなく紙は植物の繊維でできている。今回はスギ皮繊維と楮の繊維を作品の素材としようと思う。地元、飯能市の製材所で廃棄されるスギ皮を頂戴し、煮込んで繊維を採取した。紙とは何か、造形とは何かを自身に問いかけるように素材を握りしめなければならない。2022/4/28 柳井嗣雄



「手の中プロジェクト」



左写真「古の岸辺」  
580×4600×1200 cm 2020年  
メタセコイア樹皮繊維、杉皮繊維、楮繊維、金網  
Photo: Kana Kondo

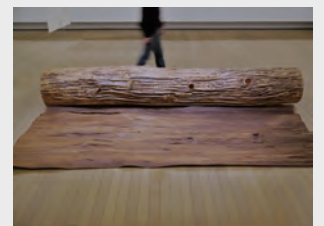
右写真「失われた身体 - 亡者の着物」  
160×335 cm 2021年  
和紙、染料、寒冷紗、けやき切株  
Photo: Gen Nakamura



「縛られたリゾーム」  
260×140×180(h) cm 2017年  
楮、麻、バレル、染料、ローブ



「Cloud #1287」  
186×295×45 cm 2014年  
和紙、杉皮、膠、染料



↑上4点は展示されません。

柳井 嗣雄 Tsuguo YANAI 1953年 山口県萩市生まれ。1977年 創形美術学校版画科卒業後、スタンリー・W・ヘイターに師事(アトリエ17、パリ)。1980年より銅版画家としてスタート。版画用紙を自ら漉き始めたのをきっかけに1985年より紙の作品制作、ペーパーワークを開始。物の在り様を、風化して消えてゆく物質的存在と、記憶やイメージとして現れる精神的存在とし、「物質と生命の記憶」をテーマにする。紙漉きの手法をベースにしたインタレーション作品を特長とする。楮栽培から原料作り、様々なペーパーワーク技法の研究、開発、指導を行う。PASと紙アートスタジオ主宰

主な個展

- 1989 ギャラリー21+葉 (東京)→同 1980,1987
- 1991 ギャラリーαm(東京)
- 1993 ギャラリークキ (パリ)
- 1994 調布画廊 (東京)→同 1992
- 1999 ギャラリーゴトウ (東京)→同 2001,2013
- 2000 ギャラリースペース21 (東京)
- 2002 山口県立萩美術館 (山口)
- 2006 マキイマサルファインアーツ (東京)
- 2014 ブラザギャラリー (東京)
- 2015 いりや画廊 (東京)
- 2016 ストライプハウスギャラリー (東京)→同 2014
- 2018 POLARIS the art stage (神奈川)
- 2019 宇フォーラム美術館 (東京)
- 2020 鎌池美術館・田んぼ (秋田)

- 1985-1990 現代美術今立紙展 今立町 (福井)→同 1987 [佳作賞], 1989 [優秀賞], 1990 [大賞]
- 1988 紙と現代美術 [谷新企画] ニッコロ画廊 (イタリア)
- 1990 第3回 INO 紙のこぼれ [谷新企画] いの町紙の博物館 (高知)
- 1991 「イメージの境界」 エスパースジャパン (フランス)
- 立体の紙・身体紙 [藤嶋俊會 企画] 神奈川県民ホール・ギャラリー (横浜)
- 1991-1997 白州・夏フェスティバル 田中混の身体気象農場 (山梨)
- 1993 現代日本の紙造形展 コート デネジ文化会館 (カナダ)
- 第1回アジアパシフィック トリエンナーレ クイーンズランド美術館 (オーストラリア)
- 1996 「NATURE-素材とイメージ」エンハロット美術館 (イスラエル)
- 1999 「和紙のかたち」 練馬区立美術館 (東京)
- 2000 「芸術の胎動」 所沢市民文化センター (埼玉)
- 2002 「紙のワンダーランド」 群馬県立館林美術館 (群馬)
- 2003 SOFA NEW YORK Seventh Regiment Armory (アメリカ)
- 2005 第5回 国際タペストリーアート トリエンナーレ トゥルネー文化館 (ベルギー)
- 2009 「鎌倉巡光」 光則寺 (神奈川)
- 2011 国際ペーパーアート会議 国立国父記念館 (台湾)
- 2012 第1回 まつしる現代美術フェスティバル 松代藩文武学校 (長野)
- 2014 Paper Objects Festival リガ (ラトビア)
- 2015 「反転と回帰」 カナダ大使館高円宮記念ギャラリー (東京)
- 2018 Contemporary Art from Japan Södertälje konsthall (スウェーデン)
- 2019 D'un bord à l'autre - Traverser la Surface Abbaye d'Alspach (フランス)
- 2021 「私たちの光と陰」Aidée Bernard と二人展 宇フォーラム美術館 (東京)
- 表層の冒険・抽象のパロキシム [谷川渥 企画] ギャラリー鴻 (東京)
- 上海国際ペーパーアート ビエンナーレ Fengxian Museum (中国)
- 2022 宝船展「くもをたがやす」 埼玉県立近代美術館 (埼玉)

主なグループ展

- 1982 所沢野外美術展 所沢航空記念公園 (埼玉)
- 日本国際美術展 東京都美術館、京都市美術館→同 1986, 1990 [佳作賞]
- 1985 現代日本美術展 東京都美術館、京都市美術館→同 1994
- 国展 東京都美術館、愛知県美術館、大阪市立美術館 [野島賞]

2022年7月6日(水)～9月25日(日) 10:00～18:00 | 観覧無料 | 休館 8月16日(火)～19日(金)、9月5日(月) \*ロゼシアター休館日を休館特別講座 | **アーティストトーク** 7月10日(日) 13:00～14:00 | 無料・申込不要 | 最新情報はウェブサイトまたは facebook をご参照ください。

主催 富士市 主管 一般社団法人富士芸術村

ふじ・紙のアートミュージアムは、紙を素材とした芸術作品を展示します。そして、「つなげる・つながる」をテーマに芸術文化活動をしていきます。当ミュージアムが拠点となり、富士市全体がミュージアムになることを願っています。2016年11月1日開館

- 交通 東名富士インターチェンジより約2.3km、国道1号より約2.2km、新富士駅より約2.2km、富士駅より約2.6km  
バスの場合は JR富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター入口」下車 徒歩2分  
新幹線 JR新富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター前」下車  
\*発車駅によって到着するバス停が異なりますのでお帰りの際はご注意ください。
- 駐車場 富士市文化会館ロゼシアターの駐車場をご利用ください。  
\*ロゼシアター開催の公演により混雑する場合があります。

〒416-0953 静岡県富士市蓼原町 1750 番地 富士市文化会館ロゼシアター1階 東側奥  
TEL 0545-32-6581 FAX 0545-32-6582 <http://www.fuji-paperart.jp>

